

■ 委員会報告 ■

着々と準備が進む第3回アジア土木技術国際会議

アジア土木学協会連合協議会 (ACECC) 担当委員会委員長

正会員 工博 (財) 鉄道総合技術研究所

奥村文直

OKUMURA Fuminao

はじめに

本年8月に韓国ソウルで開催される第3回アジア土木技術国際会議(3rd CECAR)の開催準備が着々と進んでいる。また、2001年に東京で開催された前回大会から、アジアの土木系学協会の連携も強化されており、持続的なネットワークが形成されつつある。本稿では、最近のアジア土木学協会連合協議会の活動と、3rd CECARの準備状況、さらに3rd CECARの概要を説明する。

ACECCとCECAR

アジア土木学協会連合協議会(The Asian Civil Engineering Coordinating Council, 略称 ACECC)の主催による第2回アジア土木技術国際会議(2nd CECAR)は2001年4月16日~19日に東京で開催され、アジアを中心とした14の国や地域から730名が参加した。2nd CECAR組織委員会(住吉幸彦委員長、寺師昌明幹事長)は1999年5月に土木学会内で活動を開始し、同年9月のACECC発足と同時にACECCの組織として正式に認められ、ACECC理事会ならびに土木学会との密接な協力のもと、2nd CECARを成功裏に開催している。また、2nd CECARにあわせて開催された学協会長会議でもアジアに共通する話題について、熱心な意見交換が行われた。これらの2nd CECARに関する詳細な情報は、土木学会ホームページにあるACECC担当委員会のページ<http://www.jsce.or.jp/committee/acecc/>に掲載されている。

2nd CECAR後にACECC理事会の第2代会長には韓国のKwang-II Kim博士が就任し、3rd CECARの準備を進めるとともに、定常的なACECC活動の充実も図られてきた(ACECC HP参照<http://www.ksce.or.kr/acecc>)。まず、最初に技術委員会の設立が日本から提案され、TC-1:アジア太平洋地域海岸ネットワークに関する技術委員会(委員長:名古屋工業大学 喜岡渉教授)とTC-2:総合河川流域管理に関する技術委員会(委員長:山梨大学 砂田憲吾教授)の二つの委員会が設置された。主催はいずれも土木学会である。これらの委員会は、委員会の開催や情報交換を積極的に行っており、3rd CECARで報告を行う予定である。また、TC-1は、2003年5月に韓国ソウルでワークショップを開催し、3rd CECARでもワークシ



写真-1 第7回理事会参加者

ップを開催する予定である。また、2002年に米国ワシントンで開催された第6回のACECC理事会では、実務者レベルでACECCの展開について戦略的な検討を行う委員会(Planning Committee)が発足された。同委員会では、参加国増大のための方策や、次期のTC候補の選定、3rd CECARに向けた学協会長会議での論点の策定などをメールを中心とした会議にて行っている。

アジア土木学協会連合協議会(ACECC)担当委員会は、上記のACECCの活動をサポートするとともに、3rd CECARの日本側事務局として活動をしている。昨年は、第7回理事会(オーストラリア、プリズベイン市開催)に参加するとともに、12月に台北で開催された「アジアにおける持続的な発展」をテーマとするACECCフォーラムに参加した。本年4月には、ベトナム、ホーチミン市で第8回理事会が開催され、3rd CECARの最終プログラム等が討議される予定である。これまでの理事会には、日本から土木学会代表の岡田宏氏(海外鉄道技術協力協会)、ACECC特別顧問の日下部治教授(東京工業大学)、ACECC担当委員会幹事長の堀越研一氏(大成建設)、委員会事務局の芹野恵美子氏、委員長の著者などが参加してきている。

3rd CECAR

3rd CECARは、本年8月16日から19日まで、韓国ソウルのシェラトンウォーカーヒルホテルで開催される。テーマは、「未来に向けて躍動するアジア」であり、インフラ開発と環境などの10の技術分野で、全体会議と6つのパラレルセッションおよびポスターセッションがある。そ

ここで各国の産・官・学界から有力な講演者や技術者が集まり、アジア地域における主要なプロジェクトや最新の研究開発の紹介ならびにアジア共通の諸問題が議論されることになる。特別講演では、日本から高橋裕東名誉教授が「土木の絵本」シリーズで紹介された近代土木技術者の歴史について、話される予定である。また、日本からの発表論文件数は、産官学を含めて53件におよび全体の3分の1強を占めている。また、大会の協賛金についても、各企業のご協力で達成できるめどが立っている。注目されるテクニカルビジットとしては清溪川復元計画とソウル市地下鉄9号線建設現場視察があり、高速道路やコンクリートのふたで覆われた川を再生する21世紀の都市環境プロジェクトとソウル漢川南岸の東西を走る全長38kmの地下鉄路線建設現場を視察することとなっている。

そのほかの3rd CECAR 概要は、次項のとおりであるが、テクニカルビジットや同伴者プログラムなどの詳細は、3rd CECAR 組織委員会のHP、<http://www.ksce.or.kr/ksce/#> を参照されたい。

おわりに

日本の土木学会が主導的な役割を果たしている ACECC の活動は、ますます活発化しており、3rd CECAR についても日本の支援が大いに期待されている。土木学会会員の積極的な参加とサポートをお願いしたい。

第3回アジア土木技術国際会議 (3rd CECAR) 概要

主催：アジア土木学協会連合協議会 (ACECC)

開催期日：2004年8月16日～19日

場所：シェラトン・ウォーカーヒル

・会議プログラム

- 1) 全体会議 (開閉会式、基調・特別講演)、6つのパラレルセッション (2つの特別フォーラム) およびポスターセッション
- 2) ACECC 理事会、学協会長会議 (Presidential Meeting)
- 3) 技術展示 4) TC (技術委員会)
- 5) 学生エッセイ発表 6) 同伴者プログラム
- 7) 歓迎パーティーとガラディナー
- 8) テクニカルビジット、ポストコンフェレンスツアー

・会議スケジュール

- 第1日 (8月16日)：ACECC 理事会、学協会長会議、会議登録と歓迎パーティー
 第2日 (8月17日)：オープニングセレモニー、全体会議、パラレルセッションおよびポスターセッション、技術展示等

第3日 (8月18日)：全体会議、パラレルセッションおよびポスターセッション、学生エッセイ、技術展示、ガラディナー

第4日 (8月19日)：テクニカルビジット

公式言語：英語

登録料および参加登録方法：詳細は、組織委員会ホームページ (URL 前掲) をご覧ください。

学会企画、3rd CECAR参加ツアーについて

羽田、関空、福岡空港より8月16日～19日までのコースと20日までのコースのツアーを企画しました。

予算に応じ、4つのホテルから選択することができ、空港～ホテル、ホテル～会場の送迎も行います。

コース1

8月16日 (月)～19日 (木) 3泊4日

羽田発 79,000円～99,000円 (JAL または ANA)

関空発 70,000円～89,000円 (OZ)

福岡発 58,000円～75,000円 (KE)

コース2

8月16日 (月)～20日 (金) 4泊5日

羽田発 86,000円～110,000円

関空発 77,000円～100,000円

福岡発 65,000円～86,000円

利用宿泊ホテル：シェラトンウォーカーヒル (メイン会場)、W ソウル - ウォーカーヒル (会場に隣接、2004年7月オープン)、ニューソウルまたはニュー国際 (明洞地区)、ノボテルアンバサダー (市内新興地区)

利用航空会社：日本航空、全日空、大韓航空、アジアナ航空
 利用メリット

レジストレーション登録・支払いの代行、交通至便な羽田発着便を利用、会場のシェラトンウォーカーヒルホテル以外に割安なダウンタウンのホテルを用意、空港～ホテル間の送迎バスを用意、ダウンタウンのホテルから会場までのシャトルバスを用意、滞在中必要な両替を事前に準備、日本までの資料送付 (宅急便) の代行、ツアー参加者専用のオプションツアーを用意、添乗員の同行

なお、詳細は、旅行主催会社の榊大成ツーリストに直接お問合せいただくか、ホームページ (下記) をご覧ください。

ツアー問合せ先：榊大成ツーリスト (大成建設グループ)

担当：坂田、森、鈴木

〒163-0664 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル7階

TEL 03-3349-0284 / FAX 03-3346-0442

E-mail : iahr2000@taisei-tourist.co.jp

ホームページ : <http://www.taisei-tourist.co.jp>